

(議長)

休憩を閉じて再開致します。

次に、塚本議員の発言を許可致します。

塚本議員。

「塚本議員」

本定例会、私から2問の質問をさせていただきます。

まず、第1問の質問ですが、道南イカ漁の不漁、要因に上げられる外国船の違法操業対応についてお伺いしたいと思います。

近年、海洋環境の変化などによるスルメイカ量の資源量減に加えて、外国船の違法操業による、漁獲量の激減が大きな課題となっております。資料要求で上げました、資料14を参考にして頂きたいと思いますが、江差町においてもスルメイカ量の漁獲量が今年度、10月末において、平成28年対比は25%、約4分の1まで減少してきています。もはや、漁業者の努力だけでは限界にきていると考えております。江差町だけでなく、近隣町を含めた、檜山管内の町長とも連携し、これらの対策について、道を通じ、水産庁や海保に対策を強く求めて行く必要があると思いますが、江差町のこれまでの対応、また今後の対応について、お伺いしたいと思います。

「町長」

議長。

(議長)

はい。「町長」。

「町長」

塚本議員の1問目、外国船の違法操業への対応についてのご質問ですが、日本海の排他的経済水域内における外国船の違法操業につきましては、本年7月、北海道が国に対して、警備体制の強化や漁船などへの連絡体制への整備を図るとともに、違法操業などの行為に対し、拿捕を含む実行的な対抗措置を講じるよう要望したところであり、国においても水産庁と海上保安庁が連携し、放水により違法操業船を廃除するなどの、対策を講じているところであります。江差町と致しましては、議員のご提案を、ご提言を含め、引き続き国による対策の強化が推進されるよう檜山漁協や檜山振興局、管内町村会など、関係機関とも協議連携を図りながら検討していかねばならないものと考えておりますので、ご理解願えればと思います。

(議長)

はい、「塚本議員」。

「塚本議員」

なかなか、特に北朝鮮含めて、江差町の沖に100キロ位まで来てるちゅうような噂も聞いてますけども、相まって、木造船の漂流問題。非常に課題になっております。江差町単独ではなかなか出来ないというのは重々私も解っておりますが、地元から強く声を上げないと、道が当然、道を通じて国に要請、上げるわけですけども、大きな声を更にね、檜山管内、あるいは道南一丸となって、これは町長会ってというのがあるのかどうか解りませんが、それらの団体で強く求めて行く。何回も求めていくしかないんですが、こういうのを再三、要請していく必要があると思っておりますが、今後についての対応をお伺いします。

(議長)

はい、「産業振興課長」。

「産業振興課長」

ご指摘のとおりでございます、違法操業が行われているということは、私達も承知している状況でございます。また併せて、北朝鮮からの木造船と思われるような船がですね、かなり漂着している。この件数につきましても、昨年と比べても、もう道内だけでいくと、10倍強のですね、漂着、漂流があるというような状況もございます。そういうようなことを考えれば、かなりの不法操業が行われている可能性が高いというふうに、私達も踏んでおります。ただ、道の方とも協議している中では、この違法操業がイコールイカの不漁に繋がるという証拠がなかなか見いだせないというところがあります。ただ、そういうような可能性が高いのではないのかというのが、私達も道の方も同じような認識でございますので、引き続きですね、国また関係機関含めてですね、違法操業に対する取り締まり等の強化についての要望を強めて参りたいというふうに考えてございます。

(議長)

いいですか。はい、「塚本議員」。

「塚本議員」

一問目、終わりますけれども、更に声を強くして上部団体に要請活動を強力に押し進めて頂きたいと思っております。

それでは、2問目に入らせて頂きますが、道立江差病院の医師確保に向けた、南部圏域の連携強化についてであります。照井町長が2期目の所信表明において、「不幸ゼロのまち」を目指すと、表明されております。「不幸ゼロのまち」を目指すには、地域医療体制の充実が求められます。2次医療圏病院として道立江差病院の現状は、常勤医の配置の診

療科が困難で、出張医での診療体制が続いております。このことにより、隣接する函館圏への患者が流出し、同病院の患者への不安感や、経営悪化に繋がっていると考えております。

1月28日には、江差町主催による地域医療を考えると題した、北海道医師会、長瀬会長の公演もあり、まさにタイムリーな公演と考えておりますが、今後、地域住民、江差住民以外も含めたこの檜山南部エリアの各町とも連携しながら、これらの信頼に応えるための常勤医の配置に対する、江差町の今後の考え方についてお伺い致します。

(議長)

はい。「町長」。

「町長」

塚本議員の2問目、道立病院、道立江差病院の医師確保に向けた圏域連携に関するご質問でございます。

私の公約であります、「不幸ゼロのまち」の実現におきましては、地域医療の維持充実、特に南檜山圏域にセンター病院であります、道立江差病院の機能維持充実が重要な要素であることは、議員ご指摘のとおりでございます。現在、道立江差病院は、消化器内科、呼吸器内科を含む6つの診療科においては、出張医での診療となっておりますし、病院に掛かっている町民の約2割は、渡島圏域の医療機関を受診している状況でございます。道立江差病院の機能維持充実は、江差町のみならず、近隣町におきましても、住み慣れた地域で安心した生活を続けて行くためには、必要不可欠であり、特に医師確保は重要な課題と認識しております。町と致しましては、平成25年度から、医師研究資金貸付事業を開始し、側面的な支援を実施しておりますし、道立病院局と連携し、都度、要望を伝えているところでございます。

また、毎年1月下旬に南檜山圏域構成町の町長全員と、檜山振興局長、道立病院局が一同に会し、札幌医科大学へ医師確保に向けた要請行動を継続しているところでございまして、来年も実施を予定しております。

なお、これまでの要請行動のみならず、江差町中心として、南檜山医療圏域の自治体全体が道立病院問題を直接意見交換することが重要と考え、道立江差病院が立地している江差町として、南檜山圏域構成町の町長に呼び掛けをし、道立病院局との意見交換を実施する方向で取り進めており、北海道と構成町が更なる連携を強め、医師確保に向けた一層の取り組みを進めてまいります。

「塚本議員」

以上で、質問を終わらせて頂きます。

(議長)

はい。以上で「塚本議員」の一般質問を終わります。